

R7校内研究 社会サークルのまとめ

社会科の授業における「内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～」について

内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

1 社会科の授業における 研究主題の目指す児童像

★「試行錯誤しながら」「粘り強く」取り組むとは

- ① 児童から課題・問いが浮かぶようになる
- ② 自分で学習計画を立てられるようになる
- ③ 毎時間の振り返りから、次の時間の課題を立てられる

今年度の授業改善のテーマ

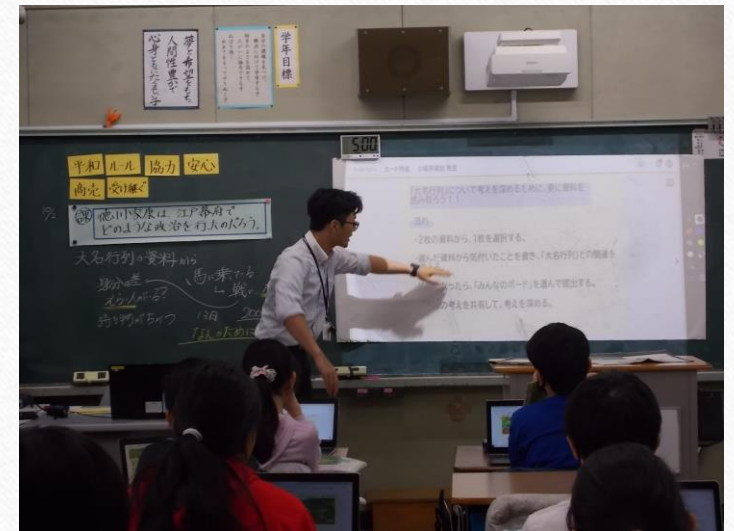
「心を揺さぶる
導入の工夫」

テーマ設定の理由

・主体的に児童が学ぶためには、問題を捉えて、課題や問いを自分で見出していくために、身近にとらえられる導入にすることが必要だと考えた。

内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

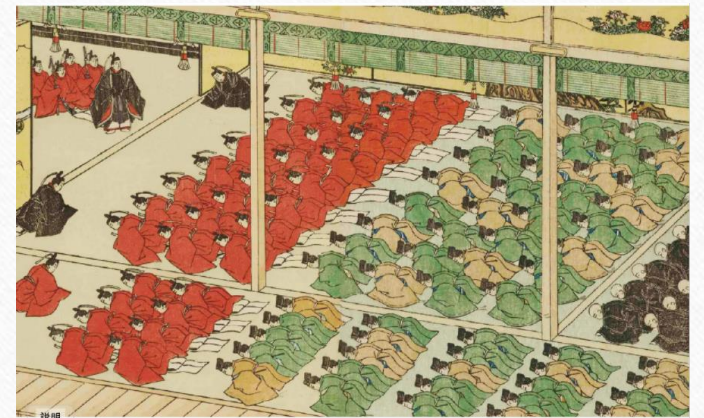
2 研究授業のまとめ (成果と課題)

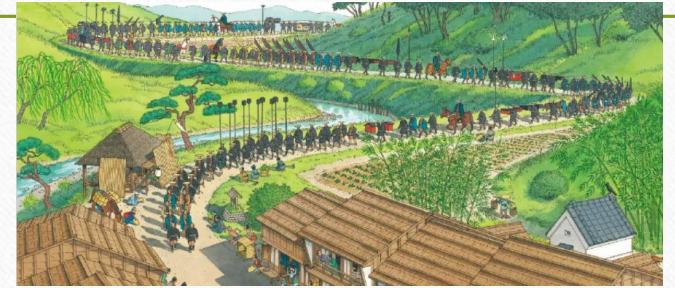


○ 日時:令和7年10月2日(木) 第2校時

○ 授業者:小坂井 達也 (6年1組)

○ 単元名: 幕府の政治と人々の暮らし





【研究主題との関わり】

手立て① 資料提示の工夫

→学級全体で読み取る資料や、個人・グループで読み取る資料など、読み取らせたい内容を意識して提示の仕方を工夫する。

手立て② 疑問や予想を大切にするための振り返りの充実

→学習の中で新たに生まれた疑問や予想を表現できるような振り返りを行うことで、次時の導入につなげられるようにする。

○成果



- 資料の読み取りの視点を明確にしていた。
- 資料の提示や教科書の確認をするタイミングを工夫していたことが効果的だった。
- 前時の疑問や予想を本時の導入に使ったことで、主体的に考えていた。
- 読み取りから自分の予想をもたせたからこそ、260年続く資料を提示した際に「おおーっ」と刺さっていた。

●課題

・タイムマネジメントについて

複数の資料を提示 → 読み取る時間が足りない

高めたい力につながる資料に重きを置く。資料の軽重をつける！

今回は学習問題を作ることが一番時間を割くべきだった。

時間短縮のために各時間ではなく単元ルーブリックでも。

・資料の比較について

タブレットでの資料提示 → 画面を変えると比較しづらい。

黒板掲示資料もあると比較しやすい。

内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

3 社会科の授業改善の ポイント

①資料の工夫

- ・教科書の資料なのか、他のところからの資料なのか、児童に身に付けさせたい力に応じて、本質に迫るための資料の精選
- ・資料を読む視点を明確に与える必要がある。
- ・資料の提示の順番を考える。

②学習計画を児童につくらせたい！

- ・自分の課題を解決するために、どのような資料が必要なのかを自分で考えて学習計画を作る。
- ・その授業ごとに振り返り、次時の時間の修正につなげられるようにする。

内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

4 社会科における

カリマネの視点

教材との出会わせ方を工夫して
疑問や予想を自分で考える！

主体性



資料の選択

試行錯誤

LOOP !

仮説・予想

